

令和6年6月1日

第240号

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158
<https://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>



「2023年「学び舎ゆめの森」開校（福島県双葉郡大熊町）」森林放射性物質汚染対策センター

- ◎ 国有林の森林計画策定にあたって 計画課・・・1
- ◎ 森林総合監理士育成の取り組み 技術普及課・・・3
- ◎ 令和6年度新規採用者の紹介 総務課・・・5
- ◎ 民有林支援・技術の普及の取組 ～森林・林業技術見学プログラム～
森林技術・支援センター・・・6
- ◎ きのこと特集・・・8
- ◎ 森づくり最前線
棚倉森林管理署 久慈川森林事務所 首席森林官 菊池 光広・・・9

国有林の森林計画策定にあたって

計画課

関東森林管理局は、1都10県の森林面積の約3割にあたる119万haの国有林を管理しています。この広大な国有林を長期的な視点で計画的に取扱うため31の森林計画区（図1）に分け、5年ごとに地域管理経営計画等を策定しています。

この森林計画は、①森林の多様な機能を発揮させること、②無秩序な伐採や開発を防ぐこと、③森林資源の安定的な供給を確保することなどを目的として、森林の整備と保全を目指すために策定される計画です。

今年度は阿武隈川森林計画区ほか6計画区で策定を予定しています（表）。

令和6年度に計画を樹立する森林計画区

県	森林計画区	森林管理署等
福島県	阿武隈川	福島森林管理署、白河支署
茨城県	水戸那珂	茨城森林管理署
群馬県	西毛	群馬森林管理署
千葉県	千葉南部	千葉森林管理事務所
新潟県	下越	下越森林管理署、村上支署
山梨県	富士川中流	山梨森林管理事務所
静岡県	静岡	静岡森林管理署

▲表 令和6年度に計画を樹立する森林計画区



▲図1 森林計画区位置図

計画の策定に当たっては、国有林を管理している森林管理署長の意見を踏まえ、計画課の経営計画官が7月から8月上旬にかけて現場に行き、森林管理署等の担当者と連携して現地調査を行っています。（図2）

現地調査では、森林踏査を行い実際の森林の状況と森林の台帳である森林調査簿の内容に齟齬がないかを確認します。現地が広大なため、過去には1ヶ月もの期間が必要でしたが、昨今の現地調査では360°カメラやUAVを使用して写真や動画を撮影して、職場に帰ってから机上で現地の状況を確認するなど、作業の効率化を図っています。



(山梨県上野原市)



(栃木県日光市)

▲図2 現地調査の様子

また、現地調査に当たっては、多様な樹種からなる森林、モザイク状の森林、複層（複相）構造をもった森林など、将来の森林の姿をイメージして施業区域や施業方法を検討します。

また、保護樹帯や保残木の設定等により生物の生育・生息環境の形成など生物多様性保全や林地保全にも配慮します。

さらに、地域の課題や要望について意見交換を行いながら、地域の実情に応じた計画の策定ができるよう心掛けています。（図3・4）



▲図3 樹木採取区の上空からの状況
(茨城県常陸太田市)



▲図4 植栽箇所の確認
(静岡県浜松市)

森林計画の策定や変更にあたっては、学識経験者等からの意見を聴取するため「関東森林管理局 国有林森林計画等検討会」を開催しています。（図5・6・7）

検討会等での意見を森林計画に反映させ、地域のニーズに合わせた国有林の管理経営を行っています。



▲図5 森林計画等検討会（現地検討会）の様子
(茨城県常陸太田市)



▲図6 森林計画等検討会（現地検討会）の様子
(茨城県常陸太田市)



▲図7 森林計画等検討会の様子
(関東森林管理局)

このほか、局ホームページへの掲載・縦覧、学識経験者及び地方公共団体からの意見聴取等を通じて、広く国民の皆様のご意見の把握にも努めています。

国有林は国民の貴重な財産であり、計画に基づく管理経営を行うことが重要です。今後も、公益重視の管理経営を一層推進するとともに、森林・林業・木材産業による「グリーン成長」の実現に貢献できるよう、適切な計画の策定に努めてまいります。

森林総合監理士育成の取り組み

関東森林管理局技術普及課

森林総合監理士（フォレスター）は、長期的・広域的な視点に立って地域の森林づくりの全体像を示すとともに、市町村森林整備計画の策定等の市町村行政を技術的に支援したり、施業集約化を担う「森林施業プランナー」等に対し指導・助言を行う人材です。このため、森林づくりに関する科学的な知見、木材の生産から利用までの基本的な知識に加え、これらを地域の振興に結び付けていく構想力や、合意形成に必要なプレゼンテーション力が高い人材であることが求められます。

関東森林管理局では、森林総合監理士を目指す技術者の育成を図るための研修を実施してきているところです。ここでは、令和6年度の研修について林野庁が実施するものも含め4つの育成研修をご紹介します。

関東森林管理局による研修

ニホンジカによる森林被害、不成績となっている人工林等、気候変動による豪雨の増加等による山地災害の激甚化など、地域それぞれが抱える課題に対応できる人材を育成する研修。

1 地域課題に対応できる人材養成研修（ニホンジカ被害対策）

令和6年6月19日～21日（3日間）

地域のシカ被害対策の取組を総合的かつ効果的に推進するための知識・技術を基礎から学び、市町村森林整備計画策定や被害対策の計画・立案の中核となるリーダー・コーディネーターとして関係機関等周囲と連携した取組ができる人材の育成する研修。



2 地域課題に対応できる人材養成研修（多様な森林づくり）

令和6年7月17日～19日（3日間）

生育が良好でない森林、社会的条件が不利な森林等について、天然力を活用した針広混交林化等により育成複層林へ誘導するための知識・技術や課題及び留意点について基礎知識を学び、市町村森林整備計画策定や地域の森林づくりに寄与できる人材を育成する研修。



3 地域課題に対応できる人材養成研修（林地保全に配慮した森林づくり）

令和6年8月26日～28日（3日間）

山地災害危険箇所を判読し、森林計画及び施業方法に活用できる能力を習得し、なおかつ災害を誘引せず、恒久的な使用に耐え得る森林作業道作設の基礎的な知識を得ることにより、事業者等にアドバイスできる人材を育成する研修。



林野庁による研修

令和6年度林業成長産業化構想技術者育成研修

令和6年10月1日～4日（4日間）

林業の成長産業化に向けて、ICT等の先端技術を活用した路線選定等による効率的かつ効果的な木材生産基盤となり得る路網計画を含む、森林の施業から木材の流通までを考慮した総合的な森づくり構想の作成に関する高度な知識・技術を有した者を育成する研修。



令和6年度新規採用者の紹介

総務課

さわやかな風が吹き渡る5月8日～16日の7日間、関東森林管理局において、令和6年度新規採用者を対象とした新規採用者研修及び基礎全般研修を実施しました。これからの国有林の管理経営を担うフレッシュな新規採用者を紹介します。



前列左から

下越署 坂井 大翼
 天竜署 森 圭吾
 計画保全部長 諏訪 実
 次長 畑 茂樹
 局長 志知 雄一
 総務企画部長 水野 明
 森林整備部長 増田 義昭
 赤谷森林ふれあい推進センター
 鈴木 優也
 埼玉所 森川 晴仁

中列左から

山梨所 遠近 深空
 福島署白河支署 出田 陽生
 棚倉署 服部 孝教
 中越署 藤岡 尚志
 福島署 傳田 羽都音
 計画課 田村 弥和
 中越署 山田 梨加
 森林整備課 西山 秋雨
 塩那署 中川 千麗乃
 伊豆署 池谷 汐織

後列左から

日光署 稲垣 武士
 総務課 小林 奈々実
 治山課 小松 隼人
 磐城署 會下 理久
 下越署村上支署 中島 伸司
 会津署 柴田 風衣
 保全課 小山 絢也
 茨城署 大城 慶太
 日光署 長瀬 良太
 福島署 長山 晃大



民有林支援・技術の普及の取組 ～森林・林業技術見学プログラム～

森林技術・支援センター

令和5年度からの取組として、森林・林業関係者の皆さんを対象に当センターの試験地で、森林・林業技術を見学いただけるプログラムを設定しました。様々なコースを案内しています。

主なものを紹介させていただきます。

(詳しくは、ホームページをご覧ください。[森林・林業技術見学プログラムのご案内](https://www.rinya.maff.go.jp/kanto/gizyutu/program/attach/pdf/program-2.pdf)
<https://www.rinya.maff.go.jp/kanto/gizyutu/program/attach/pdf/program-2.pdf>)

○筑波山試験地（複層林・モザイク林）

・試験の目的と概要

水郷筑波国定公園に指定されている筑波山において、景観を損なわない森林施業を第一の目的として複層林への誘導方法等の試験をしています。

現在は、上層木の保残方法の違い（点状、列状等※）などにより、8タイプ19区画の試験地があります。

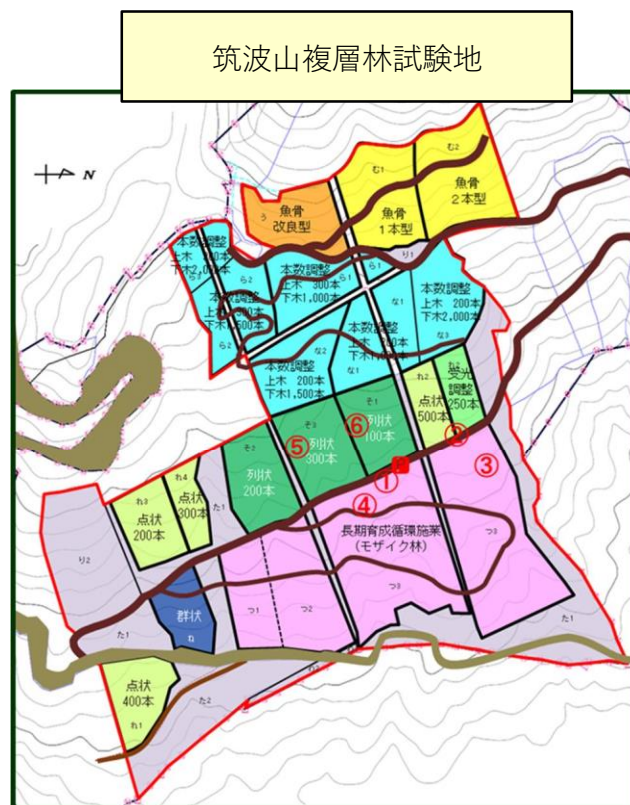
- (1) 場所：茨城県石岡市小幡横道国有林 223 林班
- (2) 植栽年度
上層木 1901(M34)年 (123 年生)
下層木 1981(S56)～2003(H15)年 (21～43 年生)
- (3) 面積：約 36ha
- (4) 樹種：上層・下層木とも ヒノキ

・見学内容（約1時間コース）

①収穫調査体験、②点状保残区、③長期育成循環施業区（モザイク林）、④列状保残区の見学

・見学時期（常時）

多様な林分構造に誘導する方法、森林資源の循環利用と生物多様性の保全の両立等について学んでいただける内容としております。



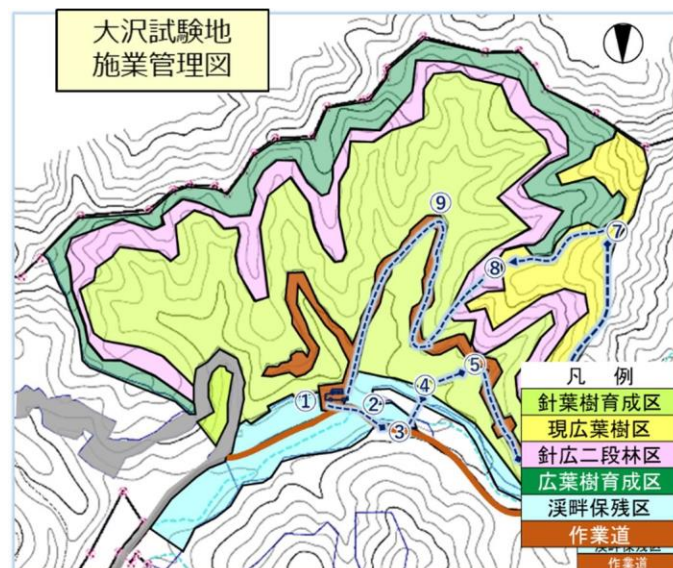
○大沢試験地（施業指標林）

・試験の目的と概要

大沢試験地は、木材生産機能と公益的機能のバランスをとりつつ長伐期化するための効率的な森林づくりの手法を見いだすことを目的に設定した指標林です。

具体的には、針葉樹一斉人工林について密度管理しながら間伐をくり返し行い、適度に広葉樹を導入配置することで、林分の構成樹種の多様化を図ることに取り組んでいます。

- (1) 場所：茨城県東茨城郡城里町大字下赤沢字
大沢国有林 258 ろ 2 林小班外
- (2) 植栽年度：1952(S27)年度 72 年生
- (3) 樹種：スギ・ヒノキ
- (4) 面積：21ha



- ・見学内容（1時間又は2時間コース）

- ①溪畔保残区、②針葉樹育成区、③針広二段林区、④広葉樹区の見学

木材生産機能を出来るだけ低下させないよう、路網の整備を図りつつ適度に広葉樹を導入していく手法について学んでいただける内容としております。

- ・見学時期（常時）

このほか、令和5年度は筑波山試験地見学、地上レーザー測定機器 OWL の見学プログラムを2回開催しました。茨城県をはじめ茨城県内の6市町の職員に参加をいただき見学していただくとともに、併せて当センターの令和6年度新規取組課題の紹介も行いました。



今年度においても見学プログラムを実施し、民有林の人材育成への貢献及び技術開発成果の情報発信に努めていきます。

※ 試験地での用語であり、関東森林管理局「森林の管理経営の指針」で定める複層林の用語とは異なります。

今月の表紙

2023年「学び舎ゆめの森」開校（福島県双葉郡大熊町）森林放射性物質汚染対策センター

「学び舎ゆめの森」は、2023年に認定こども園（預かり保育）・義務教育学校・学童保育が一体となった教育施設として開校し、子どもたちと地域のための活動拠点となっています。

東日本大震災と原子力災害で被災した大熊町に、教育施設が戻るのは12年ぶりのこととなります。

「学び舎ゆめの森」は、「**温故創新**」**誇りを持って、自分の未来を切り拓く**」を教育方針とし、子どもたちの健やかな成長を第一に、ゼロからのまちづくりが進む大熊だからできる教育の実現を目指しています。

（大熊町立 学び舎 ゆめの森 (<https://manabiya-yumenomori.ed.jp>)）



きのこ特集

日本には様々な種類のきのこが存在していると言われておりますが、今月は光るきのこを2種類紹介します。



ナラタケ（食）（タマバリタケ科 ナラタケ属）

9月中旬から10月中旬にかけて主に広葉樹の倒木や立ち枯れ木、伐根に群生する。稀に春4月下旬から5月中旬に発生することもある。

針葉樹から発生する種類もあり、近年10数種類に細かく分類されたが全てが食用で毒はない。カサは径5cmから10cmくらいで表面は黄土褐色から鮮黄色で黒い鱗片があり、粘性がある。柄は3cmから7cmで白色で上部に白色のツバ（柄についた膜状のもの）があるが、残っていないこともしばしば有る。ヒダは白色で古くなると黒色になり、柄に垂れ下がるようになる。

日本で一番方言（地方名）の多いきのこである。（一例 北海道「ぼりぼり」 山形県「ささもたし、ぬめりっこ」 群馬県「もたせ」 新潟県「あまんだれ、もぐら、やぶたけ」）

光り方 きのこ（子実体）が光るのではなく、菌糸足と言われる栄養を取り込む所が光る。



ツキヨタケ（毒）（ツキヨタケ科 ツキヨタケ属）

9月中旬から10月下旬にかけて主にブナの倒木や立ち枯れ木、伐根に群生する。以前は深山のブナの木に発生していたが、近年は、里山のコナラからも発生が確認されている。毎年多くの人が食中毒を発症するきのこである。カサは径3cmから15cmくらいの半円形で表面は紫褐色から黒褐色で、柄は白色で短く根元にはツバがある。ヒダは白色で柄に垂れ下がるようになる。

光り方 ヒダが緑色に光る。採取して時間が経過すると光り方が弱くなる。



森づくり最前線

棚倉森林管理署 久慈川森林事務所 首席森林官 菊池 光広



八溝山山頂にある城を模した展望台

棚倉町には、奥州棚倉山本不動尊（大同2年（807年）に弘法大使が開いたとされる寺院）があり、サクラ、シャクナゲ、ツツジ、モミジ等、四季折々の景色を楽しむことができることから、県内外から多くの参拝者が訪れています。隣接する国有林はレクリエーションの森（山本不動森林スポーツ林）となっており、町営山本キャンプ場が整備されています。そこを流れる久慈川の支流の宮川は透明度も高く、夏になると避暑を求める多くの人で賑わっています。

私の勤務する森林事務所は、福島県南部に位置し、奥久慈流域の国有林約6,200ヘクタールを管理経営しています。管内には標高1,022メートルの八溝山（やみぞさん）があり、土壌等の自然的条件に恵まれ、古くからスギ・ヒノキを主体とした林業が盛んな地域です。産出される木材は素性がよく、木目・赤みの色が美しく、曲げ強度も強いことから首都圏市場では「奥久慈材」という地域銘柄が定着し、今後も安定的な供給が期待されています。



奥州棚倉山本不動尊

棚倉町を含む東白川郡一帯の八溝地域は、これまでニホンジカの生息が確認されていませんでしたが、平成30年に八溝山周辺においてニホンジカの生息が確認されたため、周辺国有林の林内にセンサーカメラを設置し、モニタリング調査を実施しています。

また、茨城署、塩那署、棚倉署が連携して「八溝山周辺国有林ニホンジカ対策協議会」を設立し、「福島茨城栃木連携捕獲協議会」と情報共有及び連携を図りつつ、ニホンジカの対策等を行っています。

これからも林業関係者や地域住民と森林管理署とのパイプ役として、良い森林づくりができるよう、首席森林官として今後も業務に努めてまいります。



センサーカメラで撮影されたニホンジカ



造林請負事業の監督をする筆者（右）